熊本空港環境計画と目標の達成状況（2024年度）

o 熊本空港エコエアポート協議会は、空港本体における環境負荷の低減並びに空港と地域の交流・活性化を推進することにより、空港及び空港周辺において、環境の保全及び良好な環境の創造を進める空港（エコエアポート）を実現することを目的としております。

o 上記目的の達成のため、第２次阿蘇くまもと空港環境計画に基づき、各施策を実施しております。

o 2024年度の各環境要素における目標の達成状況は以下のとおりとなっており、今後も関係各所と連携していきながら目標達成に向けて取り組んでまいります。

環境要素	目標	達成状況
大気・ｴﾈﾙｷﾞｰ	・空港関係車両1台あたりのCO2排出量を平成28年度比で５%削減する。 ・10年後の空港における旅客１人あたりのエネルギー消費量を平成28年度比で10%削減する。	・平成28年度比3%増/台 ・平成28年度比26%削減/人
水	・空港旅客1人あたりの上水使用量を20ℓ/人以下で維持する。	・上水使用量9.1ℓ/人
土壌	・土壌汚染の発生を防ぐ	・土壌汚染の発生なし
廃棄物	・一般廃棄物のリサイクル率を25%にする ・一般廃棄物の空港全体及び旅客1人当たりの発生量を平成28年度比で20%削減する	・一般廃棄物リサイクル率30% ・空港全体平成28年度比23%増、旅客1人当たり平成28年度比1%削減/人

（参考）
熊本空港環境計画（第２次）目標に対する具体的施策

環境要素	目標	具体的な施策
大気・ｴﾈﾙｷﾞｰ	【目標Ⅰ】 空港関係車両１台あたりCO2排出量を平成28年度比で5%削減する	① 空港関係車両のエコカー（電気自動車、天然ガス自動車、ハイブリッドカー、LPガス自動車、低排出ガス認定車、低燃費型車両）化を図る。 ② アイドリングストップ運動を組織的に推進する。 ③ 関連車両台数の見直しと効率的運用の検討を実施する。
	【目標Ⅱ】 10年後の空港における旅客１人あたりのエネルギー消費量を平成28年度比で10%削減する	④ 各施設の照明の高効率機器への転換・省エネ化を促進する。 ⑤ 不使用時の照明の消灯、蛍光灯の間引き使用、照明器具の清掃及び昼光の利用等の照明関連並びに待機電力の抑制等のOA機器関連の省エネ行動を推進する。 ⑥ 各施設の空調設備等について、機器の劣化などを定期的に診断し、適切な時期における高効率機器への転換・省エネ化を促進する。 ⑦ 窓ガラスへの二重ガラスの使用、熱線吸収・反射ガラスの採用及び熱反射フィルムの貼付等を実施し、建築物への熱負荷を低減する。 ⑧ 冷暖房設定温度の適正化、空調機フィルターのこまめな清掃及びブラインドの利用等の空調利用抑制に関する省エネ行動を推進する。 ⑨ 太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入を検討する。
水	空港旅客１人あたりの上水使用量を20L/人以下で維持する	① 事業者ごとに上水使用量の把握を徹底し、必要に応じて節水への取り組みを見直す。 ② 節水ステッカーの貼付等の節水キャンペーンにより、利用者に節水を呼びかけ、節水意識を向上させる。 ③ 雨水、中水等の水の再利用を図ることを検討する。
土壌	土壌汚染の発生を防ぐ	① GSE車両等の整備を確実に実施し、定期点検状況の確認及び乗車前後の車両点検を励行する。 ② 排水、廃棄物の管理を徹底する。
廃棄物	【目標Ⅰ】 一般廃棄物のリサイクル率を25%にする 【目標Ⅱ】 一般廃棄物の空港全体及び旅客1人あたりの発生量を平成28年度比で20%削減する	① 案内表示等による分別回収を徹底し、リサイクル可能な廃棄物を分別する。 ② 排出事業者ごとにリサイクル可能な廃棄物について、再利用方法を検討する。 ③ 排出事業者ごとに年間の廃棄物発生量(一般廃棄物、産業廃棄物)を計測・把握する。 ④ 再生製品の積極的採用、紙使用量の削減、空港利用者へのごみ減量化の呼び掛け等ごみの減量化に向けた取り組みを実施する。